

【単純集計版】 就職活動の状況等に関する アンケート調査の結果について

令和5年3月29日

大学・地域共創プラットフォーム香川

アンケート調査概要

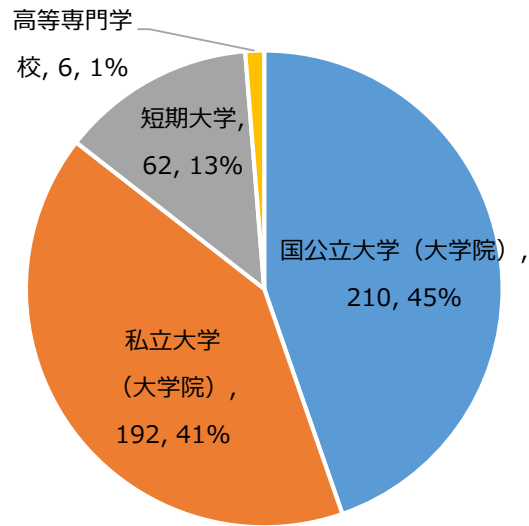
- 実施期間 : 令和5年1月24日（火）～2月17日（金）
- 対象者 : 令和4年度に大学等（大学・短大・大学院・高専）を卒業予定で、就職活動を行った、
 - ① 香川県内の学生（回答協力：県内8校）
 - ② 香川県外に進学した香川県出身の学生（回答協力：県と就職支援協定等を締結する31校）
- 有効回答件数 : 470件（県内355名、県外115名）
- 調査方法 : Webアンケート調査
- 調査目的 : 県内企業の人材確保や若者の県内定着に向けた取組みの参考とする
- 調査内容 : 全22問（就職活動の状況、就職先の選定、香川県での就職について、下表のとおり）

No.	区分	設問	回答
1	属性	性別	単一
2	属性	大学種別（任意で具体名）	単一
3	属性	大学所在地	単一
4	属性	在籍学部等	単一
5	属性	出身地域（県内出身地域）	単一
6	属性	就職先地域（主な勤務地）	単一
7	就職活動の状況	就職活動を本格的に開始した時期	単一
8	就職活動の状況	就職活動開始時の希望業種	3つまで
9	就職活動の状況	就職活動開始時に重視していたこと	3つまで
10	就職活動の状況	就職活動で役に立った情報収集方法	3つまで

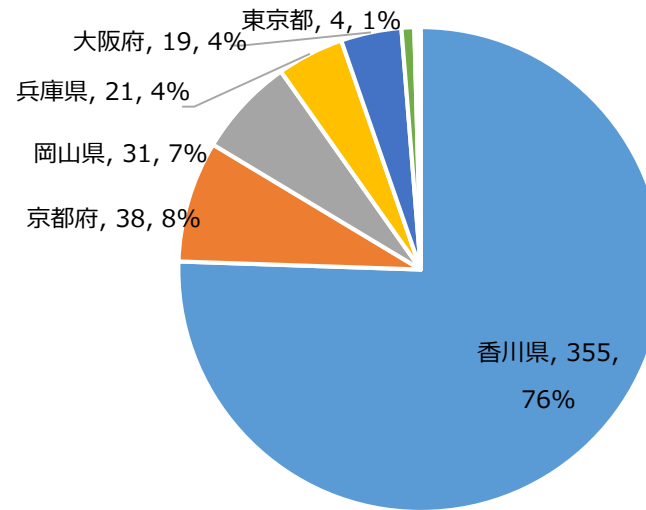
No.	区分	設問	回答
11	就職先の選定	就職活動で得た内定の数	単一
12	就職先の選定	就職活動を終えた時期	単一
13	就職先の選定	就職先の企業の主な業種	単一
14	就職先の選定	就職先の企業の規模	単一
15	就職先の選定	就職先決定時に重視したこと	3つまで
16	就職先の選定	就職先決定時に最も参考にした者	単一
17	香川県での就職	就職活動における香川県内就職の検討	単一
18	香川県での就職	香川県内の就職検討時に困難に感じたこと	複数
19	香川県での就職	香川県内（県外）での就職を決めた理由	3つまで
20	香川県での就職	香川県への就職希望者を増やす取組み	3つまで
21	香川県での就職	若者の県外転出超過の原因と考えるもの	3つまで
22	香川県での就職	香川県への愛着を感じるか	単一

◆ 回答者の属性

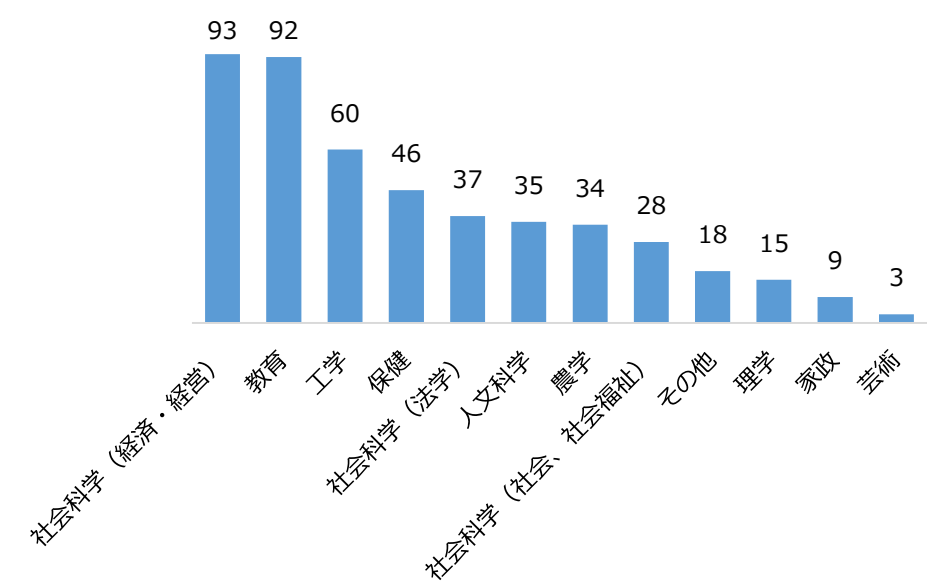
【大学の種別】



【大学の所在地】



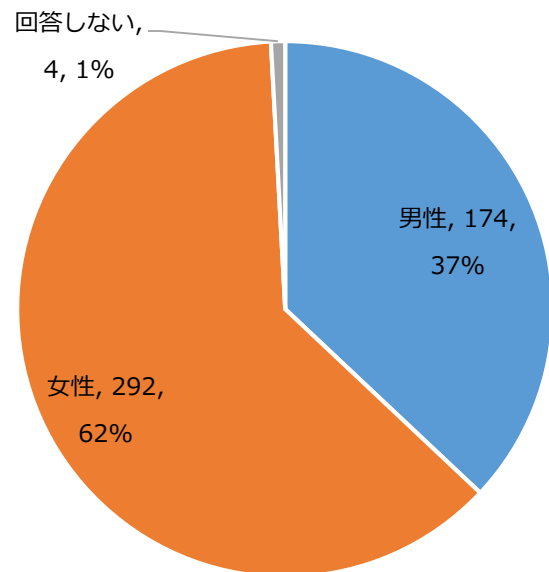
【学部】



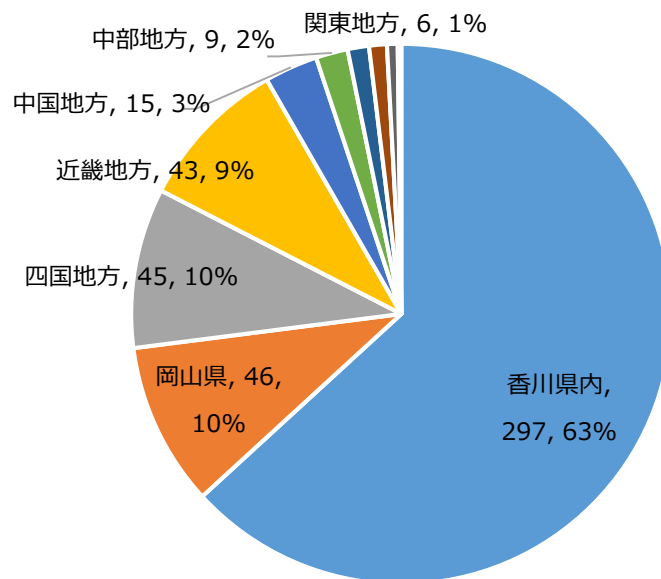
- 大学の種別で見ると、国公立大学の学生が45%、私立大学が41%、短期大学が13%、高等専門学校が1%。
- 大学の所在地では、県内大学が76%、県外が24%。
- 学部別では、経済学部・経営学部などの社会科学系及び教育学部の回答者数が多い。

◆ 回答者の属性

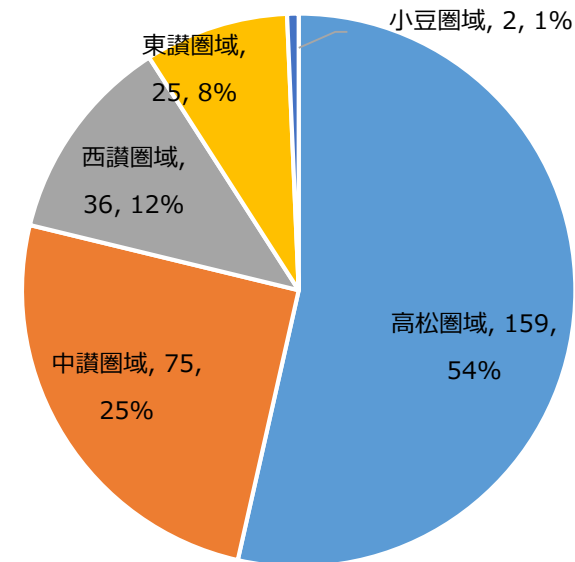
【性別】



【出身都道府県】



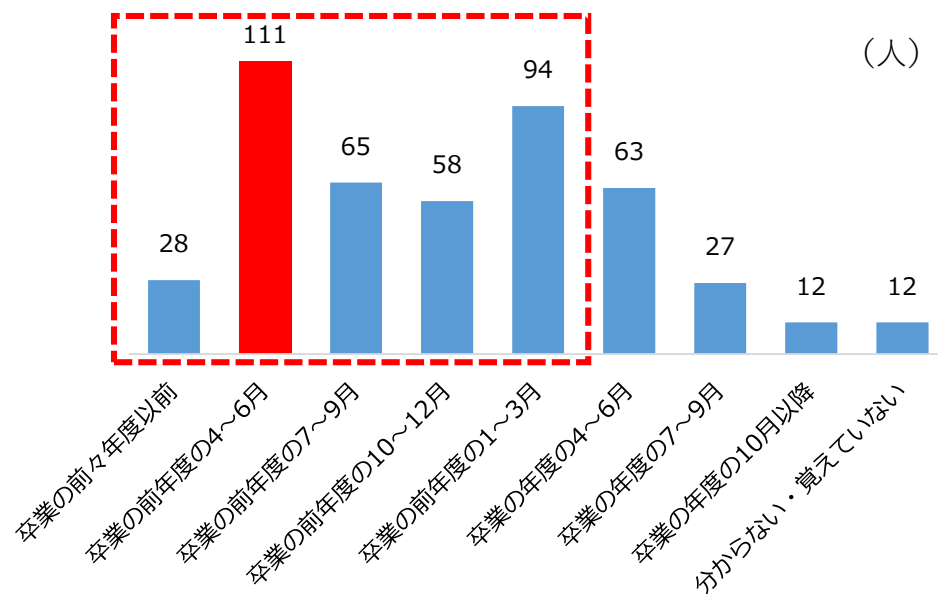
【県内出身地域】
※県内出身者297名のみ



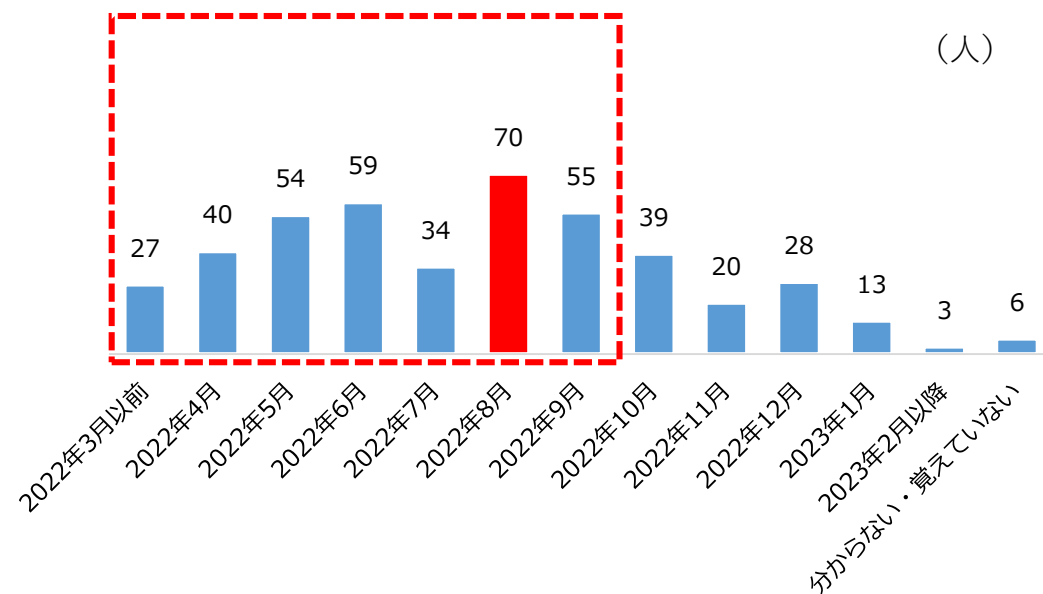
- **性別**では、**男性**の回答者が全体の**37%**、**女性**が**62%**。
- **出身都道府県別**では、**香川県出身者**が全体の**63%**、次いで岡山県、香川を除く四国3県、近畿地方の出身者が9～10%で続く。
- 県内出身者のうち、**高松圏域出身者**が全体の**54%で最も多く**、中讃圏域が25%、西讃圏域が12%、東讃圏域が8%、小豆圏域が1%となっている。

※ 調査方法の性質上、回答者の性別、大学の種別等の属性の比率は実際の比率と比べ、偏りが発生していると考ええる。

【就職活動を開始した時期】

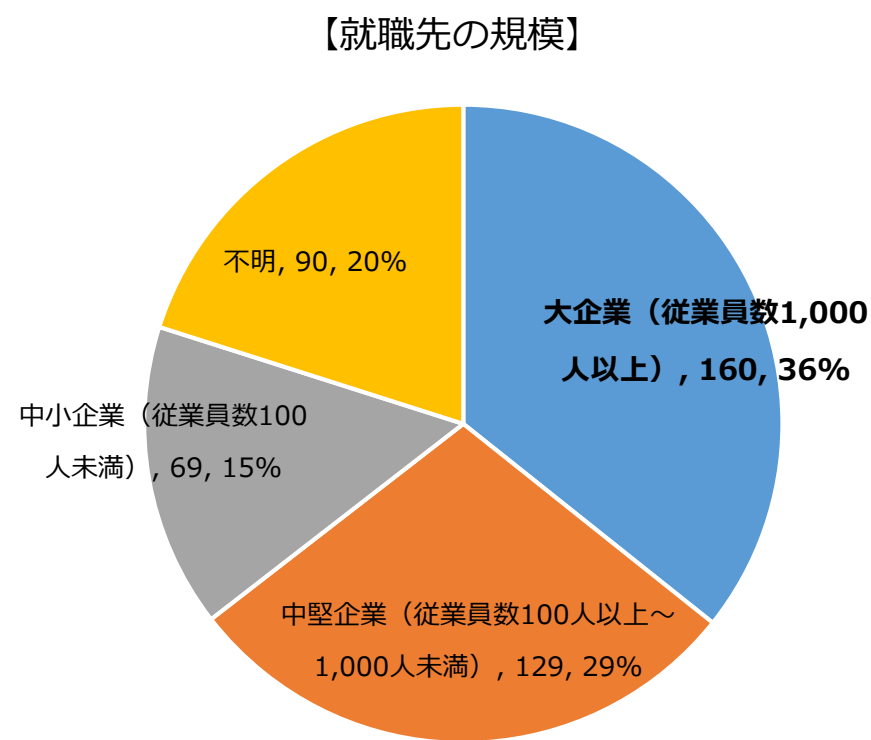
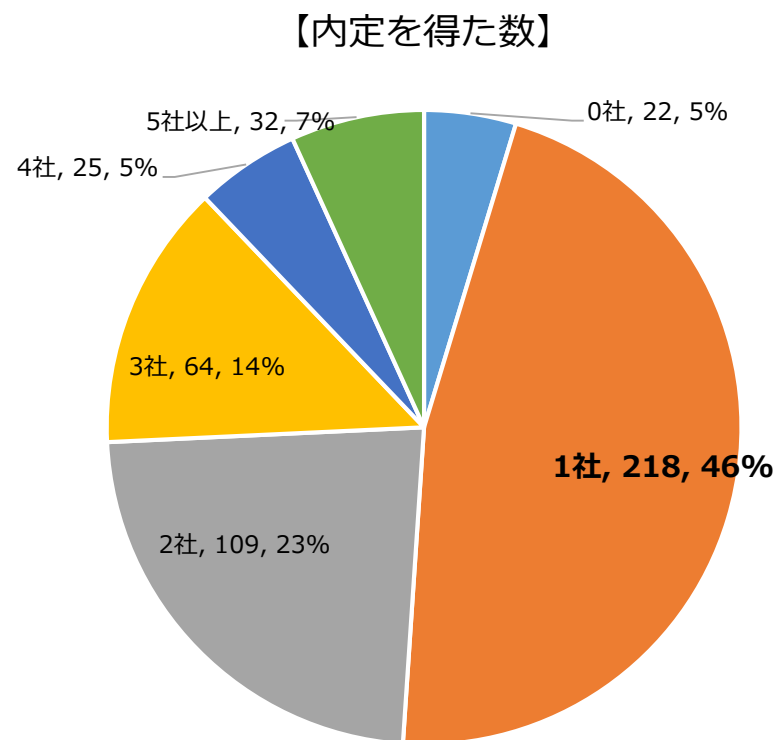


【就職活動を終了した時期】



- 就職活動を開始した時期で最も多かったのは、卒業前年度の4～6月（4年制大学の場合、大学3年の4～6月）。
- 全体の76%が卒業前年度の終わりまでに就職活動を開始している。
- 就職活動を終了した時期で最も多かったのは、卒業する年の8月。
- 1社以上から採用を得た回答者のうち76%が卒業する年の9月末までに就職活動を終了している。

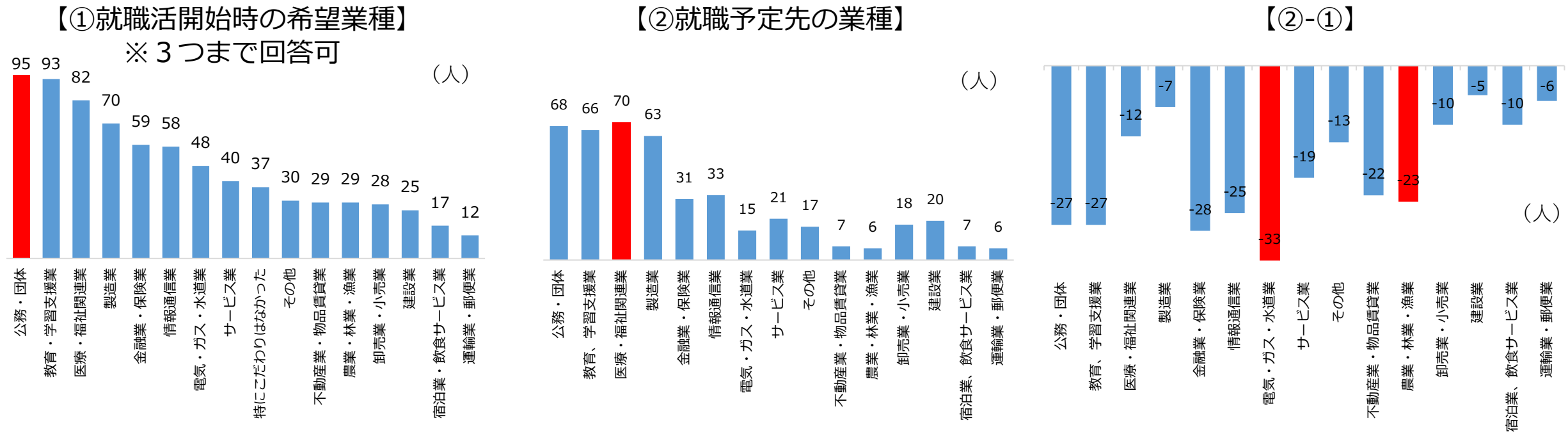
◆ 内定を得た数・就職先の規模



- 内定数は1社が最も多く全体の46%であった。
- 内定なしが全体の5%である一方、全体の26%が3社以上からの内定を得た。
- 就職先の規模は、大企業（従業員数1,000人以上）が最も多く、1社以上からの内定を得た回答者のうちの36%で、中小企業（100人未満）は15%だった。（不明20%を含む）

◆ 就職活動開始時の希望業種・就職先の業種

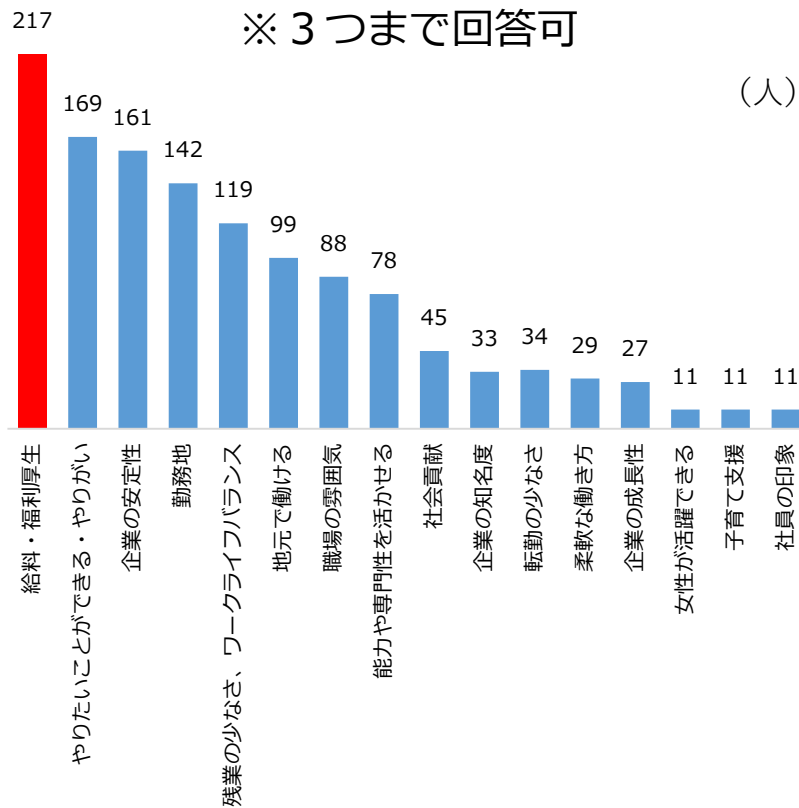
→クロス集計版 P.7、11



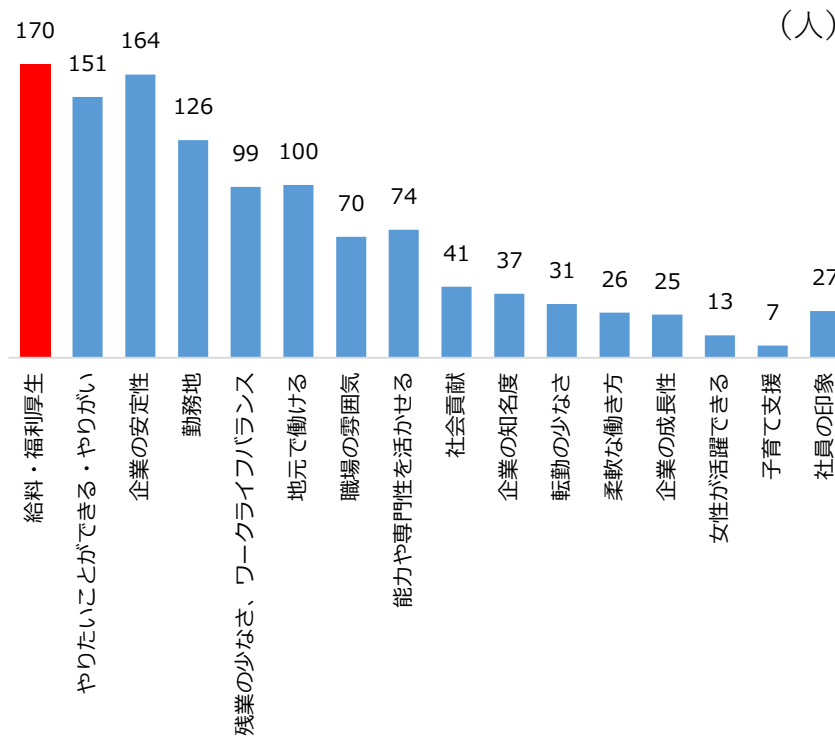
- ①就職活動開始時に希望していた業種では、「公務・団体」が最も多く、全体の20%が希望しており、次いで、教育・学習支援業（20%）、医療・福祉関連業（17%）が多い。
- ②就職予定先の業種では、医療・福祉関連業（16%）が最も多く、次いで、公務員・団体職員（15%）、教育・学習支援業（15%）と続く。
- 業種別の希望者数と就職予定先の人数の差が最も大きいのは、電気・ガス・水道業であり、割合で最も差があるのは、農業・林業・漁業（希望者の21%が実際に就職予定）であった。

【①就職活動開始時に重視していたこと】

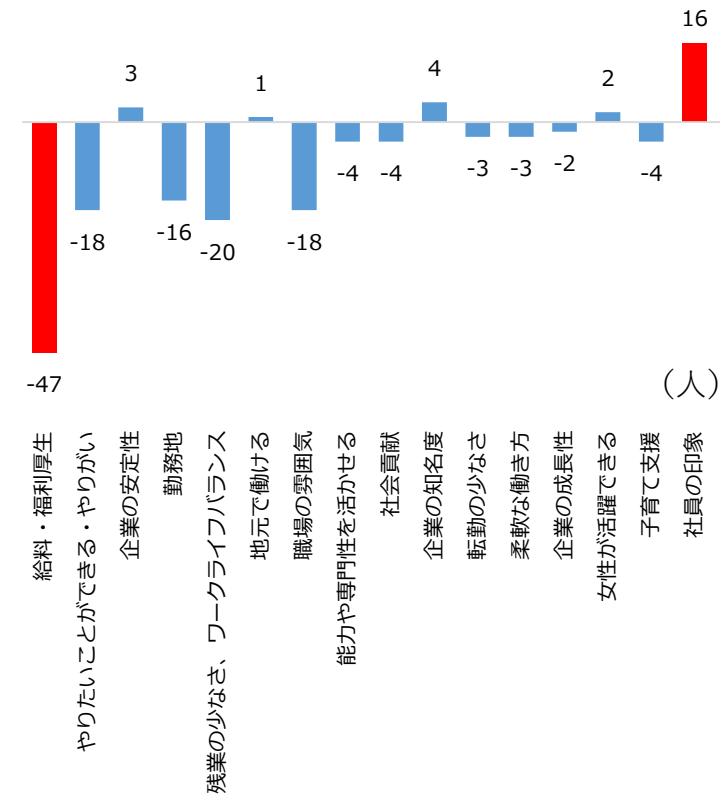
※ 3 つまで回答可



【②就職先決定時に重視していたこと】



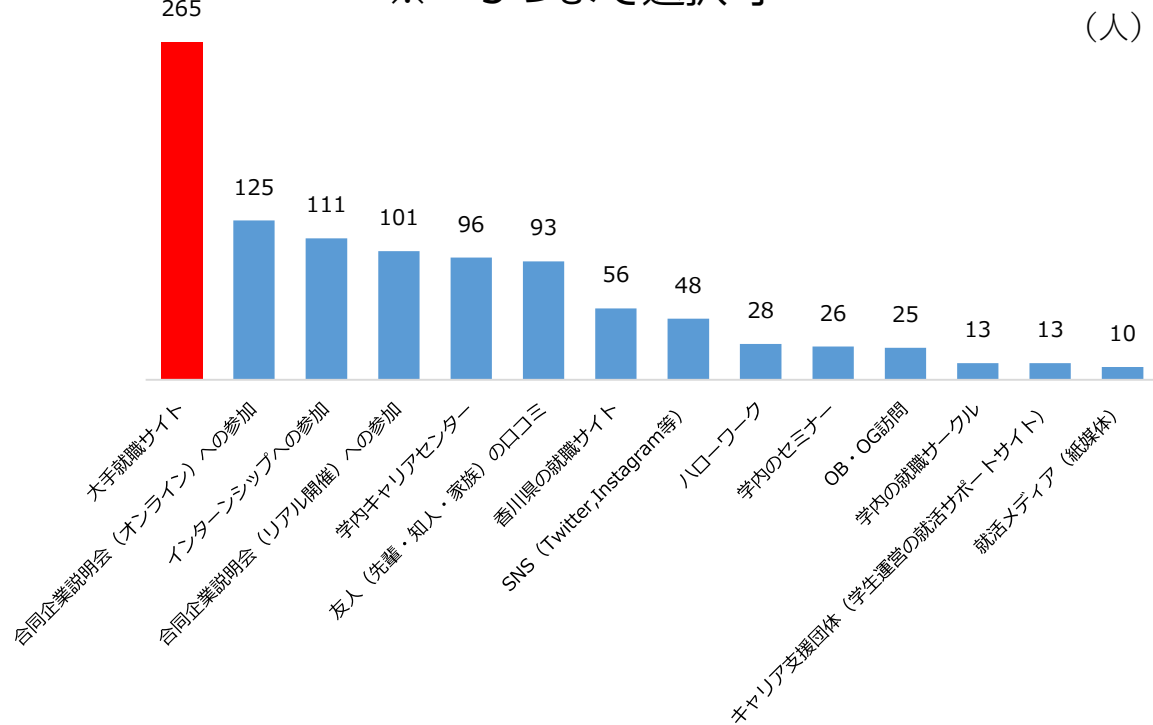
【②-①】



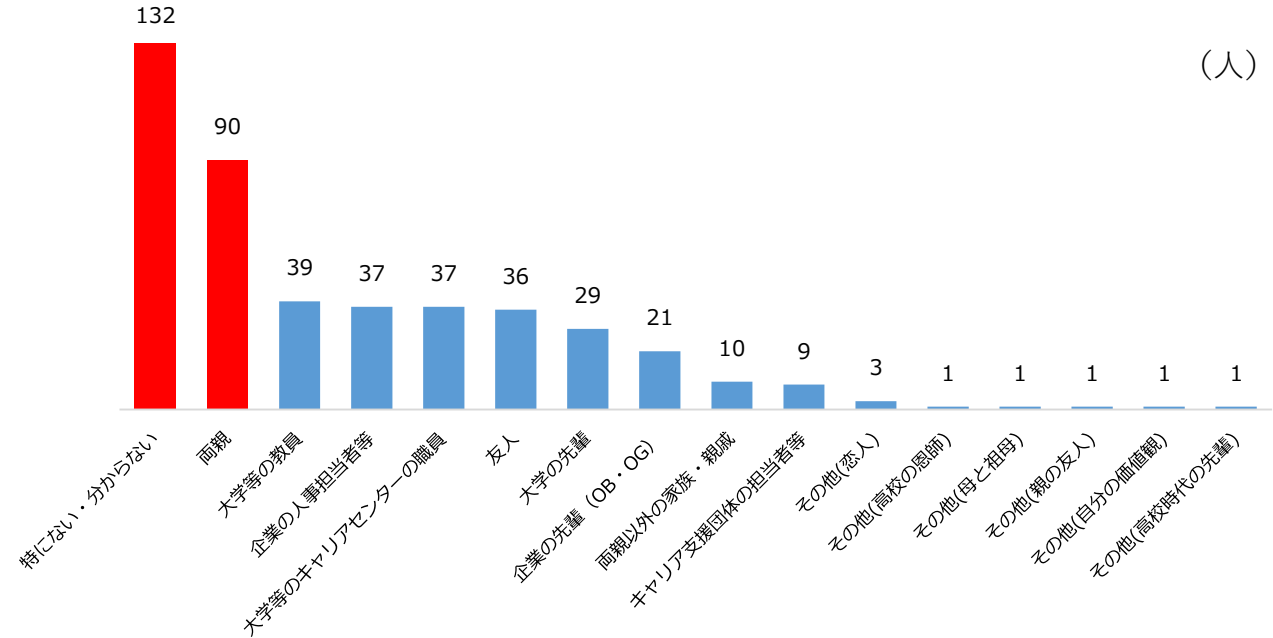
- 「給料・福利厚生」が、就活開始時と就職先決定時のどちらにおいても重視したこととして最も多かった。
- 次いで、「やりたいことができる・やりがい」や「企業の安定性」が重視したこととして多かった。
- 「給料・福利厚生」は、就活開始時より、就職先決定時に重視する人が減少した。
- 「社員の印象」は、就活開始時より、就職先決定時に重視する人が増加した。

◆ 情報収集で役に立ったもの・就職先決定時に影響を受けた人 → クロス集計版 P.10、14

【情報収集で役に立ったもの】
※ 3つまで選択可

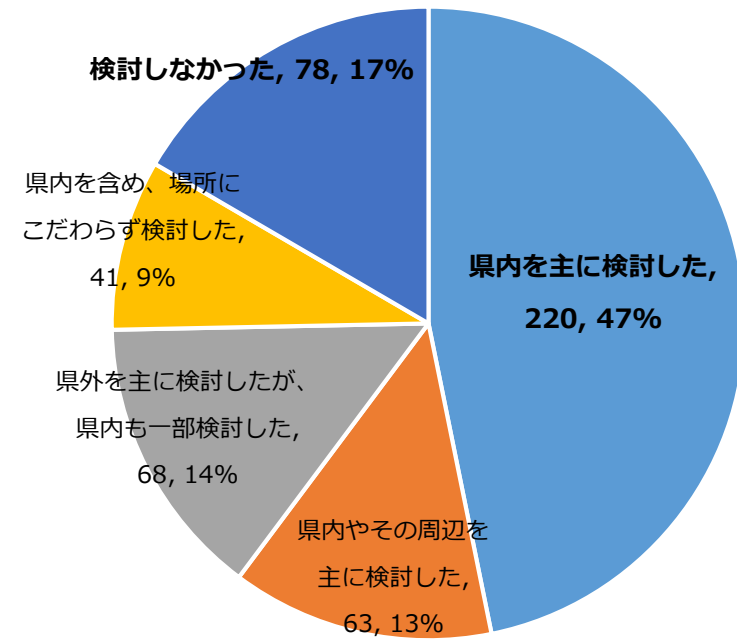


【影響を受けた人】

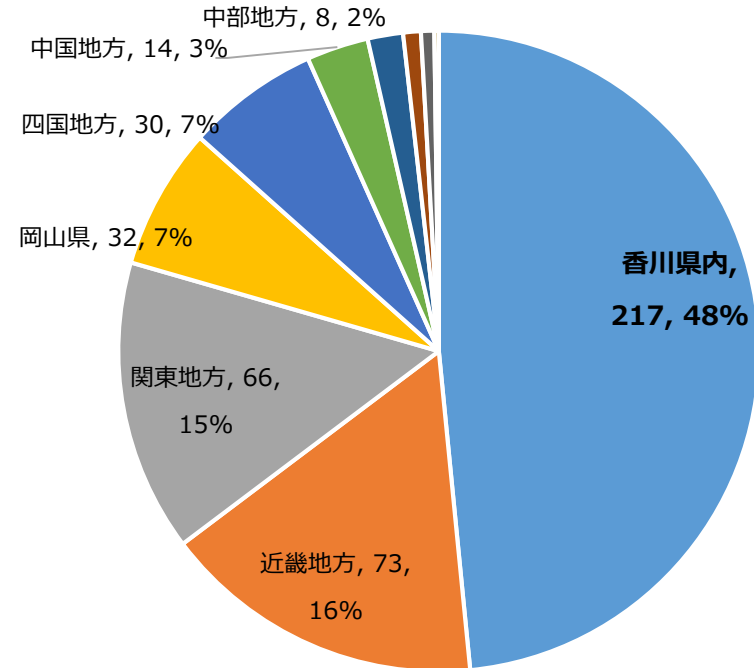


- 就職活動における情報収集で役に立ったものとして、「大手就職サイト」と回答したのは全体の56%で最も多く、次いで、「説明会への参加」が27%、「インターンシップへの参加」が24%であった
- 就職先決定時に影響を受けた人は、「特にない・分からない」が全体の29%で最も多く、次いで、「両親」(20%)が多かった。

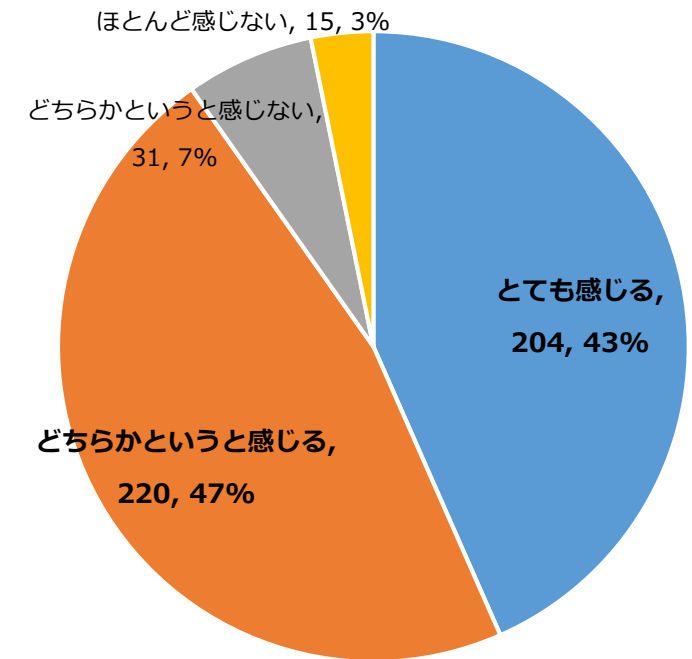
【県内就職の検討状況】



【就職先の主な勤務地】



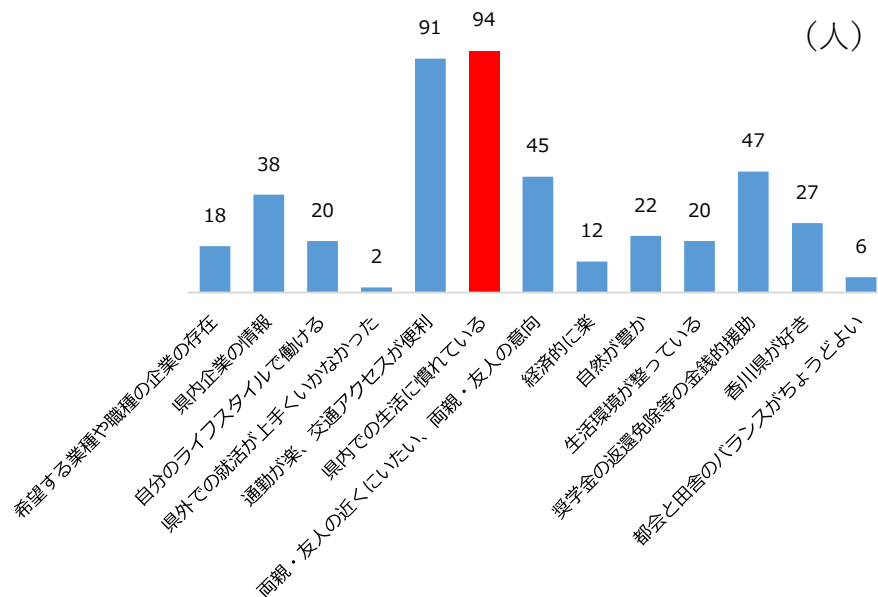
【香川県への愛着】



- 県内就職の検討状況として、全体の**47%**が**主に県内就職を検討**し、**検討しなかった**のは、**17%**だった。
- **就職先の主な勤務地**は、**香川県内が48%**で最も多く、次いで近畿（16%）、関東（15%）、岡山県（7%）、香川を除く四国3県（7%）の順に多かった。
- 全体の**90%**が**香川県に愛着を感じる**と回答。

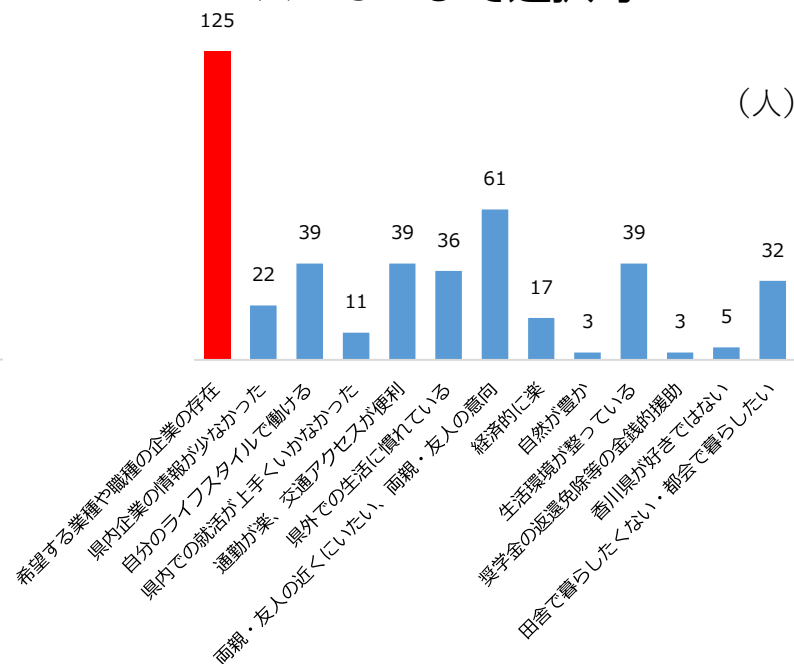
【①県内就職を決めた理由】

※ 3つまで選択可

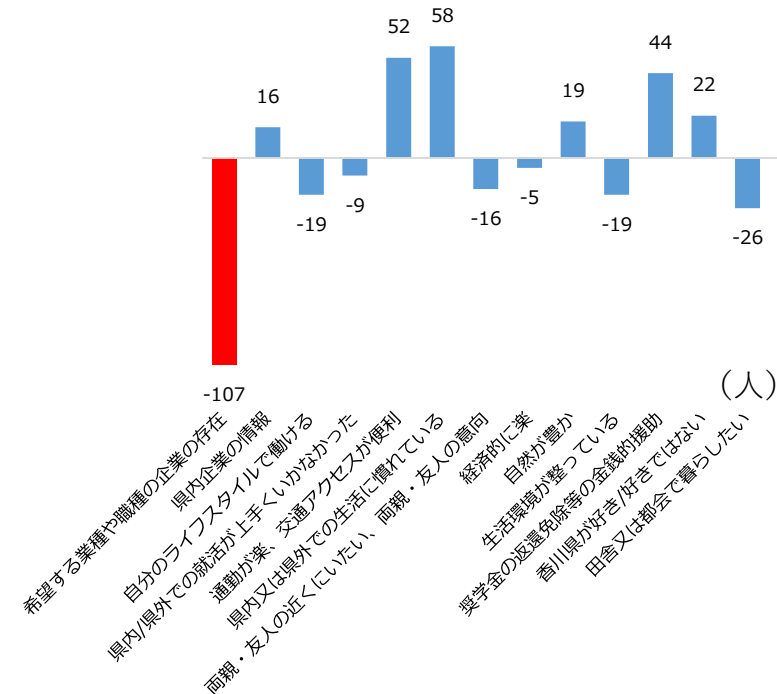


【②県外就職を決めた理由】

※ 3つまで選択可



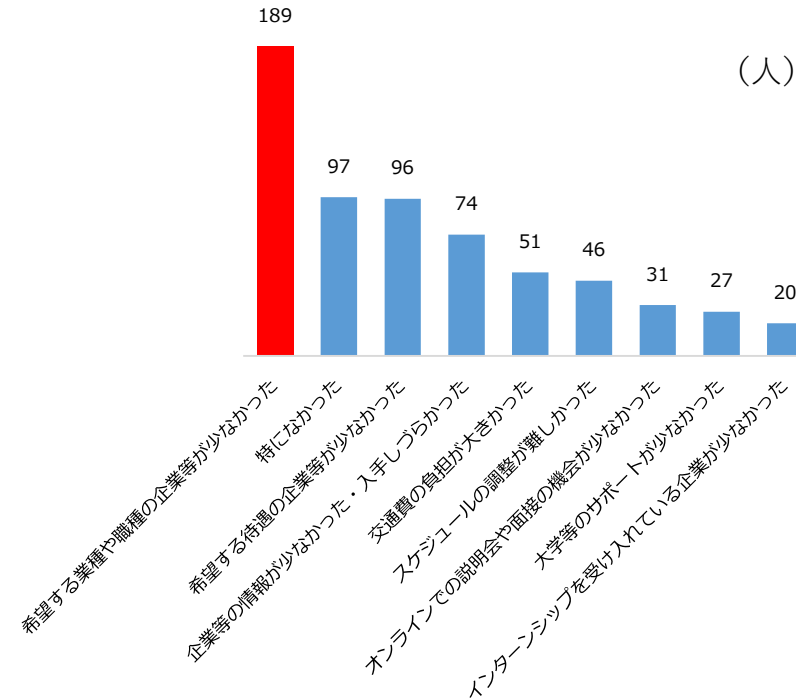
【①-②】



- **県内就職を決めた理由**として最も多かったのが、**「県内での生活に慣れ親しんでいる」**（就職先の主な勤務地が香川と回答した者のうち**41%**）。
- **県外就職を決めた理由**として最も多かったのが、**「希望する業種や職種の企業の存在」**（就職先の主な勤務地が香川以外であった者のうち**52%**）。
- 県内又は県外就職を決めた理由として**最も差が大きかった**のは、**「希望する業種や職種の企業の存在」**であった。

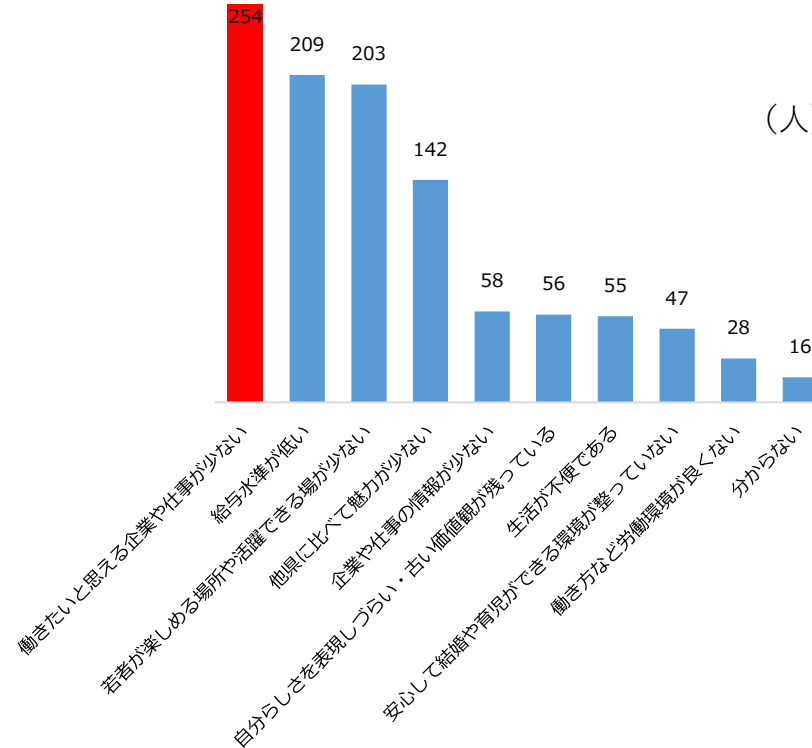
【県内就職検討時に困難に感じたこと】

※ 3つまで選択可



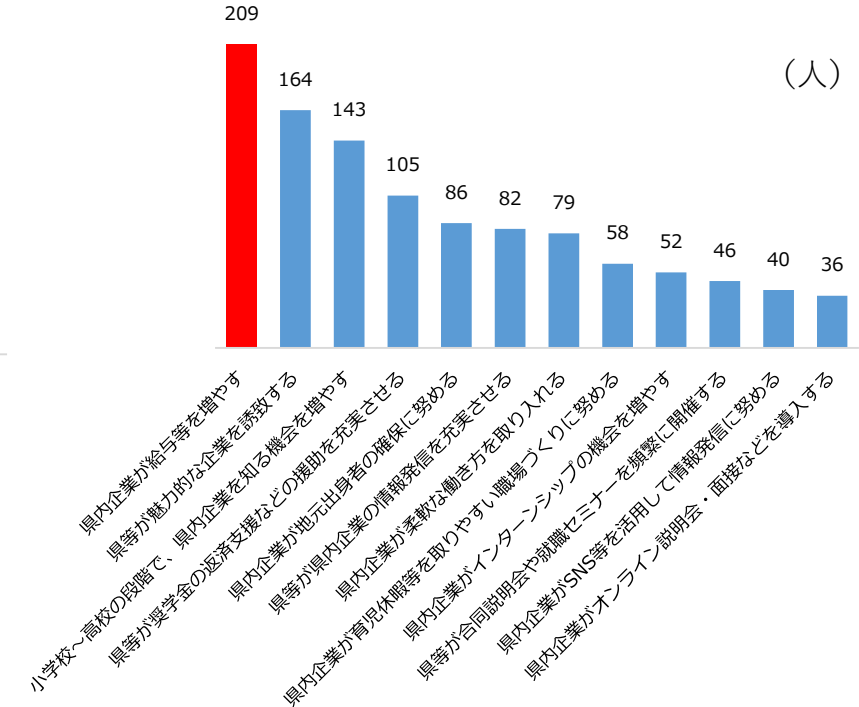
【就職時期の県外転出が多い主な原因】

※ 3つまで選択可



【県内就職希望者を増やすにはどうすればよいか】

※ 3つまで選択可



- 県内就職検討時に困難に感じたこととして、県内就職を検討した回答者の48%が「希望する業種や職種の企業等が少なかった」と回答。
- 就職時期の転出が多い原因として、全体の54%が「働きたいと思える企業や仕事が少ないから」と回答。
- 県内就職者を増やす方法として、全体の43%が「県内企業が給与等を増やす」と回答、34%が「県等が魅力的な企業を誘致する」と回答。